



2021-22
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を
豊かにするために

Rotary
シェカール・メータ

2021~2022年度 標語 諫早西ロータリークラブ
「ビジョンを持って繋げよう未来へ」 会長 毎熊 正太郎



第1733例会 2022年 4 月 20 日例会記録 NO.30 天候 晴れ

【本 日】会員数 47名 出席 36名 欠席 8名 出席率 82.23%
【4/13】会員数 47名 出席 44名 欠席 1名 (MU 2名) 出席率 97.78%

会長の時間



毎熊 正太郎 会長

皆様こんにちは！！先だってから、ウクライナへの支援活動に協力頂いている会員の皆様、大変ありがとうございます。朗報として、坂本会員にお願いした所で、袋に入れて持ってこられた方がおり、箱には入りきらない量の支援を頂きました。又、私の姉も「箱はどこにあるの？」と聞かれ、早速、福田町のたちばな信用金庫の支店へ行き、「3,000円入れてきたよ。」と、ありがたい事です。私も、例会に来るたびに、1,000円ずつ支援したいと思っております。これからも皆様の御協力宜しくお願いします。

コロナもまだまだ、落ち着いてはいない様ですが、少しずつ日常生活を取り戻しているのではないのでしょうか。こういった中で、会員増強もままならないところですが、私の知り合いで推薦者が2人できました。1人は確約済みであります。あと2ヶ月、会員増強宜しくお願いします。

幹事報告

【例会変更】

※諫早北ロータリークラブより

日時：令和4年4月21日(木) 12:30~

場所：一般県道外環状線道路

※職場訪問例会のため

※諫早南ロータリークラブより

①日時：令和4年5月9日(月) 12:30~13:30

場所：ホテルフラッグス諫早

②日時：令和4年5月23日(月) 12:30~13:30

場所：ホテルフラッグス諫早

※定款第7条第1節(C)により

【お知らせ】

※米山記念奨学会より

「ハイライトよねやま Vol. 265」

会長／毎熊 正太郎 幹事／江嶋 利満 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／野中 英己・友永 俊介・平野 義信・久保 泰正・浦江 芳征
HP/<http://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

😊 スマイルボックス 😊

御厨 善光君：先週の相続に関する卓話、ご静聴頂き有難うございました。今後の為のヒントやきっかけとして頂ければ幸いです。

江嶋 利満君：早退します。

本日の合計 (4/20)	累 計 額
¥ 3,000	¥ 1,069,620

会員卓話



日高 会員
『日高家のルーツ』



古賀 会員
『職業奉仕の話』

ロータリの友4月号『ガイ散策』より抜粋

ガイ・ガンディカーは「例会の充実は、ロータリーと社会の発展をもたらす。だからこそロータリアンは、全ての例会へ常に出席する義務を負う」と強調しています。言い換えれば、例会に価値や魅力がないと欠席者が多くなり、やがてクラブは衰退し、社会の発展にも貢献できなくなることです。以下、ガイの考えに沿って、例会の意義について挙げていきます。

・奉仕の扉を開く

例会は会員が奉仕の心を磨き、奉仕の意欲をかき立て、奉仕の実践につなげられる学びの場でなくてはなりません。ガイは、そのためには少なくとも6週間に1回、ロータリーの原理を学んで理解を深め合う「特別例会(ロータリー研修)」を開催するよう求めていました。その際、ロータリーに精通したロータリアンを招いたり、司会者を交代制にしたり、意見交換会を開いたり、会員の成長を促す配慮にも触れています。

・心に最高の職業倫理基準を刻む

ガイは、例会で「ロータリー道徳律(職業倫理訓)」を唱和したり、解説したりする機会を設けることを推奨しています。現在、全国の例会でよく行われる習慣に当てはめれば、「ロータリーの目的」「四つのテスト」「ロータリアンの行動規範」の唱和や解説に相当します。

・卓話の重要性

ガイは、例会での卓話の重要性を強調しています。特に、各職種を代表する会員のスピーチを聴けることは、「会員の大きな特権である」と述べています。なぜなら、自らの事業や生活に役立つ新たな示唆が得られるだけでなく、ロータリアンとしての敬愛の念が高まり、真の友情やロータリー精神の高揚につながるからです。

・会員の事業発展につながる

例会が真の友情の芽生える場であることは、会員の事業発展につながるという点でも重要です。ガイは「会員であるという理由だけで、商取引が増えるなどと考えてはいけない」と戒める一方で、「親しみと友情の種は例会

で蒔かれ、しかも食事を伴う場だけに育ちやすい。そこに信頼と誠実に基づく真の友情が芽生えれば、商取引が増えるのは当然である」とも述べているのです。

・夕刻にふさわしい例会とは

ガイは、時間と気持ちに余裕のある夕刻の例会は、より精選された内容で構成するよう推奨しています。ロータリー初期において、近隣のクラブ同士の訪問、創立記念例会、新会員の歓迎例会などは、夕刻が多かったようです。ただし、議事やプログラムをなぞら^{なぞら}にして、早めに懇親会に移行しようなどという不埒^{ふらち}な考えを抱いてはなりません。夕刻の例会＝懇親会ではないからです。

・親睦を育む

ガイは「ロータリーという苗木が成長するために、その根に栄養を与えてくれる土壌がロータリーの親睦である」と述べています。ロータリーの親睦とは、志を共にし、高め合う仲間意識のことであり、それは主に例会で培われます。であるからこそガイは、例会で会員同士が語り合うことを強調しているのです。すなわち、親睦という土壌があればこそ、ロータリーの原理を学び合い、奉仕の心を磨き、奉仕の意欲が湧き上がる例会は価値のあるものとなり、ロータリーと社会の発展につながるということです。親睦と学びの二つこそ、ガイが考えていた「ロータリーの基盤(The base of Rotary)」なのです。

*ロータリー道徳律(The Code of Ethics)

1915年のサンフランシスコ国際大会で採択された、職業上の倫理を高めるための指針です。ガイ・ガンディカーは翌16年に、その全文を『A Talking Knowledge of Rotary(ロータリー通解)』に収録して、全会員に配りました。なお、このロータリー道徳律は宗教色が強く、世界の有用性において意見の一致を欠くといった理由で改訂。51年には『手続要覧』からも削除されましたが、それに代わる指針として87年の「職業奉仕に関する声明」発表、89年の「ロータリアンの職業宣言」採択を経て、現在の「ロータリアンの行動規範」へと変遷をたどります。